

焼津市の通級指導教室(ことばの教室・まなびの教室)の担当者として、多くの子ども達を支援してこられた荒井久美子先生に、特別支援教育で大切にしたいことや、一人一人の特性に応じた支援のヒントについて、わかりやすい言葉で書いていただきました。



「タイピング練習前の準備体操」

ある会合で、居住区の先生方と話す機会がありました。その中で、GIGA スクール(※1)についての話題となりました。本校は、タイピングの練習の時間を設定し取り組んだことを紹介しました。鈍い私はそのときに、「授業でローマ字を勉強する前に1年生、2年生(場合によったら3年生も)は、アルファベットを覚え、ローマ字表記を覚えなくてはならないのだ」と、愕然としました。

ひらがなもカタカナもおぼつかない子ども達がいる中で、アルファベットやローマ字表記を覚えなくてはならない時代なのですね。

本校校長が、以前「タイピング練習は、今は大変で遅くなくてもホームポジションを覚えさせることが大切です。指一本になっている子がいないよう、ご指導ください。」となげかけていました。今の私にはよくわかる話です。私のタイピングは、自己流ですから。

通級指導教室に通ってくる児童のあらわれから、タイピングのスキルを身に付ける前に必要なことを考えました。Aさんは、体の動きにぎこちなさがあります。粗大運動も苦手です。5年生の音楽の授業で和音が出てきました。3本の指で3つの鍵盤を同時に押さえることが難しく、2本の指で2つの鍵盤を押さえる練習をすることにしました。指が反ってしまい、関節を曲げることが苦手な児童です。

Aさんには、タイピングのスキルを身に付ける前に、手指の動きの練習が必要な気がしました。
例えば…

- ① 肩の関節を回す
- ② 肘の曲げ伸ばしをする
- ③ 手首を回す
- ④ 指の曲げ伸ばしをする
- ⑤ 猫の手を作る



などの準備体操の後に、タイピングの練習をスタートすると、タイピングの練習の効果が高まるのではないかと考えました。

「タイピングの練習を始めよ」の掛け声で、指のポジションだけではなく、タイピングのための体のポジションをとることができる子ども達があります。しかし、「タイピングの練習を始めよ」の掛け声だけでは、指のポジションもタイピングのための体のポジションもとることができない子ども達もいます。

人が知らず知らずのうちに自然に覚えたりできるようになったりすることが、誰かの意図的な介入によって、覚えたりできるようになったりする子ども達があります。

幼少期にたくさん手遊びをしてきました。必要だったからなのですね。タイピングのためにも楽しみながら指先を動かす活動を日常生活の中にたくさんたくさん取り入れていきたいと思いました。

(※1)GIGAスクール構想…一人一台のPCやインターネット環境を整備し、子ども達一人ひとりに応じた教育を実現しようとする
文部科学省の取り組み